

講演者紹介

渡部 直喜 氏（新潟大学災害・復興科学研究所准教授）

国内外の地すべり災害の調査研究を行う。大学院では松之山地すべりの研究を行い、博士（理学）を取得。それ以来、30年以上にわたって松之山をはじめとする頸城丘陵の地形・地質、地下水・温泉、地すべりの研究も継続中。



パネリスト紹介

日木 芳道 氏（まつのやま学園 学園長）

小学校教諭・管理職を経て、令和7年度に副学園長、令和8年度より現職。実家は寺院。「生かされて生きる」という言葉を大切にし、教育を人づくりと捉え、学校と地域、人と人とのつながりの中で、教職員とともに子どもたちの学びと成長を支えている。

柳 一成 氏（十日町市観光協会 代表理事）

十日町市・松之山温泉にて老舗旅館「ひなの宿ちとせ」を営みながら、地域づくり会社「松之山温泉合同会社 まんま」の代表を務める。温泉熱の活用や食文化の発信を通じて、地域経済と環境の循環を目指す。

小林 誠 氏（森の学校キョロロ 学芸員）

十日町市立里山科学館「森の学校」キョロロ学芸員。北海道大学大学院環境科学院博士後期課程修了（環境科学博士）。専門は植物生態学、環境教育。里山の生物多様性をキーワードに地域博物館を活用した地域づくりに取り組む。同館研究員を経て2016年より現職。2児の父。

杉山 光代 氏（まつのやま学園保護者 地域おこし協力隊）

茨城県出身、北海道育ち。2年前に神奈川県から十日町市松之山へ家族で移住し、現在、松之山地域おこし協力隊として3年目を迎える。まつのやま学園のスキーインストラクターも務める。

シン・杵右衛門クラブ って何？！

本山 義昭（シン・杵右衛門クラブ責任者）

地元の株式会社 飯塚建設に勤務する。自身の職業を生かした地域貢献を考えている時、松之山地すべり50周年記念事業で当時の地域の方が作られた冊子を読んで地元の皆さんの地域愛に感動する。60周年事業では「集いとエンターテイメントの実施」という年計画を立てて地元の先輩たちに負けないように地元を盛り上げることに勤しんでいる真っ最中です。

シン・杵右衛門クラブとは：

松之山の兎口に杵坂（もくざか）と呼ばれる地名があります。今から500年前雪消えの松之山の村を大規模な地すべりが襲いました。村中が恐さで怯える中、自ら人柱となり村を救った人こそが杵兵衛と言われる人物でした。この杵兵衛の名前を後世に残すために杵坂という地名がつけられました。

先代の杵右衛門クラブはこの杵兵衛の名前から命名されました。

シン・杵右衛門クラブは先代の意思を引き継ぎたいとの思いで地元の若者を中心に結成されました。

全国的に自然災害が広がる中、この杵兵衛伝説は防災講談として全国で講談され、防災意識の高揚に役立てられています。シン・杵右衛門クラブは杵兵衛伝説のお話を演劇にして地元の皆さんと協力して地域外へ向けて発信し「松之山から日本中を元気にしていこう！」を合言葉に活動しています。

現在、劇団員さん大募集しています！！！！